

## ＜研修員の声＞

### レディン秋山アメリカさん

(アルゼンチン出身、1982年生まれ。祖父が江別市、祖母が岩見沢市出身)



研修先：光塩学園調理製菓専門学校（札幌市中央区大通西14丁目）  
学校長・南部ユンクィアンしず子

#### 包丁の使い方が一番難しかったです

インタビューの日は冬の味覚「ぶり大根」の調理実習中であった。白いユニホームにキャップ姿、両手をきちんと両膝の上に揃えてにこやかに話を聞かせてくれた。「母国の日本料理店での調理見習いをしたことがあって日本料理の勉強がしたくて来ました」。遠くアルゼンチンから来道することについては不安もあったようだが、「頑張ろうと思いました」。初めて学校に行った時、大きくて立派な学校で自分が勉強についていけるかと不安になって、実際、しばらくは同級生にもなかなか話しかけられないくらい緊張していたという。



「研修で一番難しかったことは？」「切ること、でした。アルゼンチンではフード・プロセッサーなどの用具を使うので包丁で

きれいに切るのはとても難しいと思いました」。指導にあたった奥山講師によると、お客様からお金をいただいて食べてもらうのだからみな同じ大きさ、同じ形に揃っていないとならないのだそうで、包丁を上手に使えることは大事という。「アメリカさんはたいへんな集中力と理解力で上達しました。たいしたものですよ」と褒める。研修は和食の調理実習を中心に組まれたが、中華料理、西洋料理、パン、和菓子づくり、レストランサービスなども勉強した。アルゼンチンでは日本食、特に刺身などの人気が高いようで、「レストランのメニューも増やしたいし、将来は各国の料理を学んで自分の店を持ちたい」というアメリカさんは、「日本語が十分できないので研修は難しいことも多かったですが、日本料理をもっとアルゼンチンの人に教えたいです」と抱負を語っていた。

「祖父母が生まれ育った所を訪ねて、親戚にも大勢会えて嬉しかった」。初めて見た本物の雪に感激し、道外研修で訪れた神社やお寺の素晴らしさも堪能した。「皆さん、ほんとうにどうもありがとうございました」と感謝の言葉を繰り返していた。

き、そして冬、生まれて初めての雪を見て、子供のようにはしゃぎ、感激している姿に、私のほうが忘れていた感動を覚えさせてもらいました。

学校では日本料理の実習を中心にカリキュラムを組みました。他の学生とは、3カ月もの入学の遅れがあり、当初授業についてこれるかに心配しましたが、戸惑っていたのは最初だけで、逆に集中力の高さや理解するスピードに驚かされました。今では、お出汁の引き方から、魚のおろし方まですっかり身につく、桂むき(大根を薄く紙のようにむく技)まで出来るようになりました。

今回、海外からアメリカさんを迎えて、いろいろと考えさせられました。彼女のように遠く海外から、日本の文化や技術を勉強しに来てくれる若い人たちがたくさん居る事を知り、学生はもちろん、我々教員にとっても良い刺激となり、専門学校という、とすれば視野の狭くなりがちな環境の中、彼女のように夢を叶えるためには国境すら関係ないという一途さに触れられて、日本の若者達にとっても良い財産になったと思っております。今、学校では、アメリカさんにみんなで作れるアルゼンチン料理を考えてもらっているのですが、いつそれが給食(※)の食卓にのほのか、心待ちにしているところです。

(※)同校では学生が交代で昼食のメニューを調理して給食として皆に供されている。

## ＜研修先の先生から＞

### 光塩学園調理製菓専門学校

講師 奥山 正道 (日本料理)



#### 海外研修生を迎えて

アルゼンチンからの研修生、レディン秋山アメリカさんが来たのは、昨年7月でした。あれからもう半年の月日が過ぎている事に、驚きと、そして思い出される様々な出来事に懐かしさを感じています。

彼女が初めて来た時、少しはにかみながら赤面して話す姿になぜか「奥ゆかしい」という言葉がぴったりとくる、という印象を受けました。そんな彼女に「慣れない環境の中で、心細くなったりしないか？」と、とても心配しましたが、国は違ってもやはり同年代同士、本校の学生ともすぐに打ち解けてゆく姿にほっとした事を憶えています。

8月には、教職員と共に洞爺湖への宿泊研修に行ってきました。現地では本校の農園での農作業、湖畔にあるログハウスでのバーベキューや、夜の花火と、日本の夏を一緒に楽しみました。秋には、「学園祭での屋台」「農園でのジャガイモの収穫」と、学生と共に良い汗をか

【結び】研修員の2人から、「北海道はきれい、北海道の人はやさしい」と同じ言葉が聞かれた。「きれい」というのは町が清潔、整然としていることのような。「やさしい」というのは説明が必要かもしれない。昨今南米では「日本人は冷たい」と思われているようで、2人とも来道前にはこのことが少し不安だったらしい。

また、担当された先生たちは、「奥ゆかしい」「礼儀正しい」「相手の気持ちを考えてくれる」と異口同音に褒めていた。辻口さん、アメリカさんとも、昭和10年代に北海道から移民した祖父母に育てられた。とすれば現在の日本人が忘れがちな「昔の日本」、「昔の日本人」の良さをしっかり身につけているのかもしれない。考えさせられることであつた。



今年度の北海道技術研修員たち  
(道外研修旅行で日本の伝統に触れる・金閣寺にて)

年度	全人数	中南米	アフリカ	東欧	アジア	計
平成11年度	15名	7	1	0	7	15
平成12年度	14名	7	1	1	5	14
平成13年度	13名	8	0	0	5	13
平成14年度	11名	5	1	0	5	11
平成15年度	10名	7	0	0	3	10
平成11～15年度累計	63名	34	3	1	25	63